

1 この科目の構成について(改行は Alt + Enter)

2024

教科	芸術科	科目	美術Ⅲ			単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	3 年	7 組		
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術3						
使用副教材							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

3年生美術Ⅲでは、主としてデッサンの領域を実習する。

1年次に物の観察の仕方と画材の使い方、基本的な形態の描写を学習し、2年次ではより難度の高いモチーフを描き、空間表現等に留意した制作を行った。3年次では更に完成度を高め、大学受験レベルの作品制作を行う。基礎的な力に加えて画面構成力、想定デッサンに応用される描写力を養う。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。

定期考査を利用したコンクール形式の実技試験を行う。

受験対策として放課後を毎日実施する。更に春期講習、夏期講習、年度末講習の実施によって実力をつける。

(2)家庭

連休課題「フォトリアリズム自画像」は、自宅課題として制作する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	① デッサン、モチーフの比例、遠近法を理解。構造的観察力、立体感、空間把握。 ② 美術史：西洋美術史、日本美術史のなかでの美術の発展の歴史を知る。主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。 ③ ③彫塑：は主に完成作品で評価する。素材の理解度、技能を評価。立体作品のデッサン力で評価する。	① デッサン、画面に対しての構図。質感やイメージの表現力。 ② ②美術史：美術史を踏まえたうえでの絵画表現を考える姿勢を持つ。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。 ③ ③ 彫塑：は主に完成作品で評価。創造性、表現力を評価。	① デッサン作品の完成度。制作に対する取り組み方。集中力。 ② 美術史：積極的に美術の伝統や歴史に興味を持ち、自ら調べ学習姿勢を身に着ける。授業に取り組む姿勢を平常点として加味する。 ③ 彫塑：完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価方法	考査の点数、各課題を採点した点数で評価する。特に透視図法の知識と理解、質感表現などの描写力や立体感、空間表現方法などの技術の習得を評価する。	考査の点数、各課題を採点した点数で評価する。特に出題者の意図を理解して最適な対応を判断する理解力。表現力、構成力の習得を評価する。	考査、各課題。特に完成度を評価する。また、課題に取り組む意欲、態度を評価する。

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	■卓上配布デッサン  	・「卓上配布デッサン」 B3画用紙に鉛筆 18時間 モチーフ：牛乳ビン、針金、 「H」が大きく印刷されたA4用紙 テニスボールを自由に構成して描く (針金のみ形態を加工可)	●	●	●
1	5	■フォトリアリズムデッサン 授業と5月連休で制作 	・セルフポートレートを元にデッサン B3画用紙に鉛筆 授業6時間 連休8時間 合計約14時間	●	●	●
1	5	■静物デッサン・セットモチーフ  	・「静物デッサン：セットモチーフ」 バケツブロック他 木炭次第画用紙に鉛筆 約15時間	●	●	●
1	5	■第1回考査デッサン 静物デッサン	・「静物デッサン：配布モチーフ」 B3画用紙に鉛筆 約2時間	●	●	●
1	5	■石膏デッサン 	・「石膏デッサン：胸像」16時間 木炭紙に木炭または木炭紙大画用紙に鉛筆 モチーフ：ガッタメラータ、マルス ジョセフ、ジョルジョ、モリエール	●	●	●
1	6	■第2回考査デッサン 静物デッサン	・「手とモチーフのデッサン」 B3画用紙 配布モチーフ 約2時間	●	●	●
1	7 ～ 8	■夏期ゼミ専攻別課題 	・「デッサン課題」 10 約30時間 デザイン専攻：B3画用紙に鉛筆 絵画専攻：木炭紙に木炭もしくは鉛筆で素描	●	●	●
1	8 ～ 9	■大型セットモチーフデッサン  	・「大型セットモチーフデッサン」 26時間 デザイン専攻：木炭紙大画用紙に鉛筆 絵画専攻：木炭紙に木炭もしくは鉛筆で素描 道徳教育 創造性を養い、多様な価値観を探究し、芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、より良い社会を創り出す態度を養い、豊かな情操を培うことは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で基盤となる。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	9	■第3回考査デッサン コンクール 	■「第3回考査・デッサンコンクール」 (2時間) A3画用紙 物を持つ手のデッサン 全学年で共通の課題で実施	●	●	●
2	12	■第4回考査デッサン 	・「自画像デッサン」 B3画用紙に鉛筆 3時間 鏡配布	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	専攻別造形演習		単位	7 単位
対象コース	美術	コース	対象クラス	3 年	8 組	
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術3					
使用副教材						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

2 年次後半よりデザイン系と絵画系（ファインアート）に専攻を分けて実習してきた。デザイン系はグラフィック、プロダクトなど各種のデザインを学び、絵画系（ファインアート）は油彩、日本画、彫刻、版画など各種の純粋芸術の分野を学ぶ。
主に卒業制作と受験課題を各自の専攻で制作する。
また 1 月に行う作品展を通して、美術展の企画と運営を学び、作品展示に関する基本的な知識を得る。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。
また受験対策として放課後を毎日実施する。更に春期講習、夏期講習、年度末講習の実施によって実力をつける。

(2) 家庭

特になし

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規準 (内容 のま と ま り ご と)	「スケッチ」 風景のヴァルール、色彩による空気遠近法の理解。 構造的観察力、立体感、空間把握。 「卒業制作」 3 年間で習得した技術を自由制作で活用。	「スケッチ」 画面に対しての構図の取り方、質感やイメージをイメージする表現力。短時間で制作する上での計画を立てて遂行する思考判断力。 「卒業制作」 テーマ設定において、多面的な判断が反映されており、完成作品について根拠を述べるができる。	「スケッチ」 作品の完成度。 制作に対する取り組み方。集中力。 「卒業制作」 制作に必要な資料、画材の準備。作品の完成度。 制作に対する取り組み方。集中力。計画性。
評価 方法	完成した作品によって評価する。 オリジナリティ。 発表技術。	完成した作品によって評価する。 計画性と実行力。	完成した作品によって評価する。 集中力、提出期限。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	5	■スケッチ実習 	「青森県内の風景を描く」約10時間 画材：F8画用紙パネル水張り 透明水彩またはアクリルガッシュの選択	●	●	●
2	9 ～ 10	■卒業制作① 	「卒業生制作①」54時間 各自の専攻分野で作品を1点～2点制作 平面作品の他、映像作品、立体作品など 多様な領域で制作する。 規定：CG・アクリルB1以上 油彩F50以上、日本画F30以上 映像5分以上 画材：油彩、日本画、CG、透明水彩、 アクリルガッシュなど	●	●	●
2 ～ 3	10 ～ 1	■美術系大学受験対策課題 ■卒業制作②  	「美術系大学受験対策課題・卒業制作②」 個別課題 授業と放課後講習を使って制作 前期：基礎的デッサン中心 後期：実技試験に合わせた個別課題 石膏デッサン、静物デッサン 想定デッサン、構成デッサン、 自画像デッサン、手のデッサン、 平面構成、静物油彩、自画像油彩、 配布モチーフと言葉のイメージを テーマにした油彩、静物着彩等 「卒業制作②」 卒業制作中間講評。精度の向上を図る。 展示計画。 考えや感じたこと、生き方、信念など 自覚し、また講評する	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	芸術課	科目	日本画			単位	1 単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	3 年	8組		
使用教科書	高校生の美術3（日本文教出版）						
使用副教材	無し						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習し、日本画特有の空間表現を学ぶ。

- ① 膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など、伝統的な専門技法の学習
- ② 2年次で学んだ日本画の制作行程を応用し、F20号で本格的な制作に取り組む
- ③ 綿密な観察による描写の実習
- ④ 自由な題材でオリジナリティと創造性のある作品を目指す
- ⑤ 日本画特有の空間表現の追究

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1)学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。
放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2)家庭

無し

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	日本画画材の伝統に基づいた基礎知識の理解。 岩絵具と膠の使用法の習得。 箔、もみ紙などの技法の習得。 研ぎ出しなど、高度な技法の習得。 対象を綿密に観察し、形、質、量感などを捉える力。 デッサン力。	画面全体を構成する総合的判断力。 絵画的表現力。 色彩の基本的理論を踏まえた上で、画面上で魅力的に表現する色彩感覚。 花を中心とした空間の表現力。 自由なテーマで描かれた作品の独創性、創造性。 日本画の画材を活かした表現。	課題に取り組む意欲的な態度。 課題に対する感心と興味、探求の度合い。
評価方法	完成した作品によって評価する。デッサン力、描写力があるか。日本画画材の知識を発展的に学び、高度な技術を習得できたか。	完成した作品によって評価する。作品に独創性、創造性があるか。日本画の画材を活かした表現になっているか。作品としての魅力があるか。	制作に向かう姿勢が意欲的で集中していたか。授業態度の他、日本画に対して関心を持ち、研究心を持って取り組んだか。

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	6 ～ 7	「日本画・自由テーマ」    	「日本画・自由テーマ」（5 2 時間） F 2 0 雲肌麻紙に岩絵具 専門的知識と経験が必要な日本画は、約 1 ヶ月の集中授業の形式で学習し、専門の講師が指導にあたる。3 年次では、2 年次に学習した岩絵の具の基本的な使い方と、各種描法を応用して、更に大型の作品制作に取り組む。描法は、墨描きで進める方法と、画面に地塗りを施して描く方法、揉み紙をする方法の 3 種類から選択して制作する。また箔を使用する技法も学ぶ。 ○テーマ ①「静物」、②「花」、③「風景」、④「自由課題」から選択。 風景はスケッチ実習で制作した作品を原画とする。自由課題の中には、事前に制作した動物園でのスケッチを原画とする作品が含まれる。モチーフは「花」。背景とモチーフの空間関係に留意して描く。 ○技法は下記の 3 つの描法から選択する。 ①墨描き 濃淡 2 ～ 3 段階の墨で、線に強弱をつけながら骨描き。墨の線を生かしながら、岩絵の具で描く。 ②地塗り 黄土の白か焦茶や黒の 11 番で下塗りした後 15 番前後の岩絵の具を入念に塗り重ねる。地塗りの上に岩絵の具で描く。 ③揉み紙 麻紙をもみ紙して、その後水張り。白か 15 番の細かい粒子の絵の具で地塗りを施す。地塗りした画面に岩絵の具で描く。 ・「箔」の技法を実習する。 銀箔、アルミ箔を使用 ・伝統的な専門技法の学習 ・日本画の制作行程を一通り実習 ・綿密な観察による描写の実習 ・日本画特有の空間表現の追究 日本画における道德教育 日本画制作を通して日本文化を愛する心を養い、伝統を伝える事の大切さを学ぶ。歴史の中で受け継がれ、形成されてきた技法を体験し、日本の独特な美意識と精神性から生まれた造形思想を学ぶ。また岩絵具、膠、麻紙など自然素材を使って描くことによって、改めて自然環境に目を向ける気持ちを培う。	●	●	●